

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	79	学 校 名	浜松城北工業高等学校	校 長 名	寺田 弘隆
------	----	-------	------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

校訓「誠実・勤労」、合い言葉「地球にやさしいエンジニアの育成」のもと、浜松地域に根差した工業高校として、地元企業との連携した教育を通して、社会で活躍できるスペシャリストの育成を目指す

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
～卒業までに育成する人～ ① 責任を自覚し誠実で協調性に富み、社会の発展に貢献できる人 ② 幅広い教養を持ち工業の見方・考え方を働かせることができる人 ③ 将来の夢の実現に向けて、自分から進んで学ぶ人 ④ 環境に関する視点をもつ地球にやさしいエンジニア	～本校の学び～ ① 主体的、協働的な学びを通して課題解決に取り組む教育 ② 教科及び工業の学びを通して知識・技術、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を育む教育 ③ 将来の進路を見据えた教育 ④ 社会貢献活動などの環境教育を通して環境意識を育む教育 ⑤ 浜松型マイスター自走化事業を通したロボティクス・デジタル人財の育成	～本校が入学を求める人～ ① 夢や目標に向かって、努力や挑戦を続ける意欲がある人 ② 工業・情報・ロボット技術に関心があり、将来はエンジニアとして活躍し、社会の発展に貢献したいと考えている人 ③ 学習・資格取得、部活動、学校行事・生徒会活動及び社会貢献活動に誠実かつ積極的に取り組む姿勢がある人

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 学習指導	イ 生活指導	ウ 進路指導	エ 部活動・特別活動等
オ 広報・外部との連携	カ 業務改善		

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を高める授業の実践	- 自分の考えを表現する場面、対話する場面を設け、自ら考え理解を深める機会を多く設定する。 - 教員相互の授業参観及び生徒アンケート等を通して授業改善を推進する。 1人1台端末に対応した授業を行う。 - 授業改善や学習評価に関する研修を実施する。	「授業に、自分の考えを表現する場面や対話する場面が取り入れられていて、理解を深めることができる」と答えた生徒90%以上 - 授業アンケートで「授業が分かる」と答えた生徒80%以上 - 教員相互の授業参観100% - 観点別評価の着実な実施、具体的な評価規準の作成	教 務 各教科 MH推進室

様式第 1 号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	基礎力の定着、学習習慣の確立	・知識、技術の定着を強化する。 ・基礎力診断テストを「高校生のための学びの基礎診断」に位置付け、活用する。 ・読解力を高める機会を多く設定する。 ・放課後テストを年間20回程度実施する。 ・進路目標を早めに明確にさせ、学習に対する意識を高める。	・「力がついたら実感できる」と答えた生徒 80%以上 ・国語、数学、英語、理科、地歴公民で基礎力診断テストの分析結果を授業改善に活用 ・学習時間調査で「1日の学習時間 60 分以上」と答えた生徒 70%以上 ・「進路を意識した具体的な取組をしている」と答えた生徒 80%以上	教 務 進 路 各学年 各教科
	資格取得・検定合格に向けた指導	・理解度に応じた個別指導を実施する。	・技能検定合格 3 級 60 人以上／2 級 5 人以上 ・電気工事士合格 2 種30人以上／1 種15人以上 ・情報技術検定合格 3 級 70%以上／2 級50%以上 ・計算技術検定 3 級合格 80%以上 ・機械製図検定合格 30 人以上	各 科 特定部活
イ	基本的生活習慣の確立、規範意識の育成、他者を尊重する態度の育成	・教職員が連携して、指導を徹底する。 ・集会等の機会をとらえた効果的な指導、外部人材による指導を行う。 ・授業規律の確立、自分とは異なる他者を尊重・受容する集団づくりを行う。 ・人権教育、道徳教育を推進する。	・無遅刻者の割合85%以上、遅刻延べ数前年度比10%減 ・交通事故前年比半減（特に加害） ・「校内スマホルールを守っている」と答えた生徒95%以上 ・「自分も他の人も大事にしている」と答えた生徒90%以上	生 徒 教 務 各学年
	いじめや不登校生徒への相談体制の整備、教職員の対応能力向上	・生徒情報を相互提供し、共有する。 ・教職員間の連携を図り、研修を行う。 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のため、調査等を実施する。	・いじめに関する調査を年 2 回実施（学習支援システム等の活用） ・「信頼できる先生がいる」と答えた生徒85%以上	生 徒 保 健 教 務 各学年
ウ	望ましい勤労観・職業観の育成、系統的なキャリア教育の展開	・3年間を見通したキャリア教育計画を策定し、実施する。 ・進路情報に関し、ニーズを把握し、タイムリーな情報提供を行う。 ・外部講師の活用により進路意識や国際化への意識を高める。 ・社会状況に応じた的確な就職支援、効果的な進学指導を実施する。 ・浜松型マイスター自走化事業を活用する。	・「必要な進路情報が入手できている」と答えた生徒85%以上 ・インターンシップに60人程度が参加し、生徒の自己評価75点以上及び企業の評価A（良好）がともに75%以上 ・1次募集での内定率85%以上、年内内定率100%	進 路 各学年 MH 推進室
エ	共生意識の醸成、特別支援教育の充実	・浜松特別支援学校城北分校との交流活動を活発に行う。 ・特別な配慮を必要とする生徒に対して、適切な支援を行う。	・交流事業15件以上 ・特別配慮を必要とする全ての生徒について情報共有の場を設ける。	各学年 各 科 特定部活 管理職 保 健
	特別活動や部活動を通じた、協調性・積極性・達成感・忍耐力の育成	・生徒が活躍する学校行事を目指す。 ・生徒の成長を促す部活動を実践する。 ・部活動ガイドラインに沿った運営を行う。	・「学校生活に達成感・満足感を持っている」と答えた生徒 80%以上 ・部活動加入生徒が「部活動に積極的に参加し、やりがいを感じる」と答えた生徒80%以上 ・休養日及び1日の活動時間を遵守した部活動の割合80%以上	生 徒 各学年 各部活

様式第 1 号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	読書活動を通じた知性・感性の育成	・朝読書を徹底し、朝から落ち着いた学習環境を整備する。	・「1 か月間に1 冊以上の本を読んだ」と答えた生徒70%以上	図 書 各学年
	社会貢献活動を通じた社会性・人間関係形成能力の育成	・遠州灘ウエルカメクリーン作戦や浜名湖クリーン作戦、里山の保全活動など、ボランティアへの参加を呼びかける。	・学校の社会貢献活動等に参加した生徒 50 人以上	環境部 各学年 教 務
	環境意識の高揚	・教室の学習環境を整備する。 ・ゴミの分別を徹底する。 ・ゴミの持ち帰りと減量を図る。 ・課題研究等の授業で環境負荷を低減する意識を高める。	・「省エネや分別など環境を意識した行動をしている」と答えた生徒85%以上 ・ゴミの分別100% ・課題研究で、生産行為、製品使用時及び廃棄時等に SDGs に繋がる取組を行う。	保 健 各学年 各 科
	技術系各種競技大会への積極的参加	・県高校生競技大会（ものづくり・ロボット・エコラン）などに、周回準備により積極的に参加する。	・各種大会での上位入賞	各 科 特定部活
オ	外部との連携強化	・学校運営協議会を開催する。 ・浜松型マイスター自走化事業の実施計画を策定し自走化に向けた取組を行う。	・学校運営協議会を3 回実施（意見等を学校運営に反映） ・浜松型マイスター自走化事業の CEO 及び産業実務家教員と協力し、浜松市や地元企業、大学等との連携を拡げる。	管理職 総 務 MH 推進室
	中学校への広報、中高連携の強化	・一日体験入学、学校公開をさらに充実させる。 ・中学校訪問、出前授業等により本校の強み・良さを発信する。 ・学校HP、インスタグラムに最新の情報を提供し、利用者の利便を図る。	・一日体験入学、学校公開への参加者の前年度比増 ・HP リニューアル、インスタグラム等の充実と更新頻度の向上 ・志願者数の増加	管理職 入学広報 各 科 教 務 各部活 MH 推進室
	保護者への情報提供	・学習支援システムを活用し、学校からの情報提供と保護者・生徒との情報共有を推進する。	・学習支援システムの生徒・保護者の登録率 100%、学校の情報が分かりやすく伝えられていると答えた生徒・保護者が 90%以上	教 務
	信頼される事務室	・保護者、来訪者及び地域住民等への迅速・丁寧・適切な対応を徹底する。 ・学校の教育活動に係るすべての経費を適切に執行する。	・要望等への対応 100% ・会計を担当する教職員が円滑に業務を遂行	事務室
カ	みんなで確実かつ円滑処理	・出張関係書類等の書き方の再確認。 ・外部に出す書類、データ等の再確認。 ・情報資産を適切に管理する。 ・書類等の提出期限を再確認。 ・ICT 活用、ペーパーレスを推進し、業務の効率化、業務マニュアル作成等の改善を図る。	・出張関係書類等の漏れのない記載と期限内の提出 ・情報漏洩なし ・ICT 活用、ペーパーレス化により、業務が改善したと答えた教職員 70%以上	全職員
	時間外在校時間の削減、休暇取得で休もう	・勤務時間管理システムを活用して出勤時間を早めることを呼びかける。 ・夏季休暇の完全消化を呼びかける。	・前年同月時間外在校時間を 5 %削減 ・夏季休暇の完全消化	全職員